

「防災教育専門部会」に関する町の取組

1. 町としてのねらい

- 児童・生徒等学生の「災害対応能力」を身につける教育を実施する。
 - 自分の「いのち」、「からだ」を守ることの大切さ
 - 学校、家庭、地域それぞれの場所における対応のちがい
 - 地震メカニズムの学習(内陸部と沿岸部での対処法など)
- 住民(社会人)の「災害対応能力」を身につける教育を実施する。
 - 家族(生命・身体・財産)を守るため、各家族タイムラインの構築(自助)
 - 地域を守るため、自主防災組織や自治会との連携体制の構築(共助)
- 町職員等行政の「災害対応能力」を身につける教育を実施する。
 - 住民の生命・身体・財産を守るための能力向上(公助)

2. これまでの取組

- 熊本地震への対応に関する災害検証の実施
 - 全職員アンケートの実施⇒災対本部の機能不全や避難所運営の不手際等の指摘
 - 自治会ヒアリングの実施⇒町からの情報過疎や町役場機能停止の指摘
 - ボランティア団体ヒアリングの実施⇒町職員及び地域住民の防災意識希薄の指摘
 - 公的応援機関ヒアリングの実施⇒災対本部におけるマネジメントの脆弱性の指摘
- 熊本地震に関する資料の収集
 - 地震被害に関する書籍類、遺物等の収集
 - 公共インフラ等被害資料の収集
- 熊本地震犠牲者及び遺族への対応
 - 発災後100日に「慰霊祭」を実施
 - 発災後1年に「追悼式」を実施

3. これから進めていきたいと考えている取組(検討中の内容も含む)

今年度 に進めていきたい取組

- 防災・減災プログラムの作成
 - 災害対応力を向上させる学校教育プログラムを作成する。(一部、実施にも着手。)
 - 防災・減災出前講座等におけるプログラムを作成する。
- 避難訓練の実施
 - 防災・減災プログラムの一環として、地域と連携して避難訓練を行う。
 - 避難訓練の結果を防災・減災プログラムに反映させる。
- 震災に関する資料・記録のアーカイブ化(デジタルアーカイブの実施)
 - 熊本県が整備する震災デジタルアーカイブを活用し資料を保存していく。
 - 防災・減災教育にデジタルアーカイブを活用する。

来年度以降 に進めていきたい取組

- 防災・減災プログラムの実施
 - 学校との調整を行い、防災・減災プログラムを継続的に実施する。
 - 防災・減災出前講座等における講師を育成する。
 - 他専門部会の取組みと連携し、後世に震災の教訓等を語り継ぐ「語り部」を育成する。
- 震災遺構、防災公園等を活用した体験型プログラムの実施
 - 避難所体験ツアーの実施(体育館での宿泊、非常食体験等)
 - 携帯トイレの使用体験、防災用井戸の使用体験等